

薬剤アレルギー情報の登録を適切に行うことができるデータベースの開発
～交差アレルギー薬の確認ができるデータベース～

○宮村信輝¹、阿部純子¹、杉平直子¹

¹メディカルデータベース株式会社

【目的】

薬物アレルギー情報は医療従事者が適切に情報を共有することが重要である。アレルギー情報はシステムによるチェックでアラートが出る仕組みが普及しているが、適切にアレルギー情報の登録がされずにチェックをすり抜けていることが日本医療機能評価機構から報告されている。この報告のまとめで「薬剤アレルギーの情報を入手した際は、医療機関内で決められた場所に手順通りに適切に登録する必要がある。システムのアラート表示の条件や範囲を認識した上で使用することも必要である。」と提言されている。我々はこの提言を受け、アレルギー薬登録時に、入力キーワードからアレルギー情報の登録候補を表示することができ、また、チェックが可能な範囲－製品、成分および系統(交差アレルギー)－を確認できるデータベースの開発を行った。

【方法】

同一成分、同一系統(交差アレルギー)をグループ化したデータを作成した。系統は添付文書、各種文献の記載から主に薬効分類により系統名一覧を抽出した。さらに、製品、成分、系統の関連性の「近さ」を定義したデータを作成した。次に作成したデータを1つのデータテーブルにまとめて、一括して参照できるデータベースとした。

【結果】

作成したデータベースにより、同一成分および同一系統などチェック範囲を確認できた。また、製品、成分および系統の関連性の情報を示すことにより、各アレルギー情報間の「近さ」を確認できた。

【考察】

アレルギー薬の候補を示すことでシステムへの登録時に適切な登録ができると考えられた。また、処方時などにアレルギー情報のチェック範囲や「近さ」を示すことによってアラートの範囲を確認することができ、チェックをすり抜ける原因を減らすことができると考えられた。本データベースはアレルギー薬についての患者リスクを低減することに貢献できるものと考えられる。